

# 何もないから何でもできる

## 創造空間のなかで



前川 士郎さん

大阪府出身 昭和28年生まれ

1997年 三川町へ移住

人形劇を通し、文化による

まち興しを担っている。

子供の頃から芝居に興味があり、なかでも人形劇をやってみたいと思っていました。大阪や東京の様々な劇団に参加し、芝居や人形劇に全てを捧げる生活を送っていました。特にシェークスピアの作品が好きで、シェークスピア・シアターや東京シェークスピア・カンパニーに参加し研究を重ねてきました。

三川町に移住して10年目になります。振り返れば、奥泉光さん(芥川賞作家・三川町出身)の奥さんが同じ劇団の先輩であったことが移住のきっかけになります。三川町出身者の会“望郷みかわけ”というものがあり、その場で町長が奥泉さんに「文化による町興しをしたい。そのためには文化活動をしている人に住んでもらうのがいい」とお話しになったそうです。奥泉さんは、以前私が「都会の、時間とお金に追われる生活にはほとほとつかれた。田舎に住んでみたい」と口にしていたことを記憶していて、それならとさっそく町に私を紹介し、結果的に三川町への移住につながりました。

成り行きで移住した格好になりますが、移住前に奥泉さんの誘いで三川町を訪れたことがあって、その時に、都会にはない広がりのある景観に一目で魅了され、水や野菜のおいしさに感動したことが、移住を決める要因になったと思います。

移住してから特に苦労をしたことはありません。住まいは、町が空き家を改修し用意してくれました。仕事の斡旋もしてくれましたが、それを受けるまでもなく、集落の方の声がけで農作業の手伝いをするようになり、その後、やはり集落の人の紹介で

町内の企業に勤めることとなり現在まで7年間続いています。はじめは好奇心からだったと思いますが、集落の人はいつも私を気にかけてくれ本当に親切です。

たぶん私の最大の使命なのであろう「文化による町興し」活動も、ご近所とのつながりから始まりました。近所のコーラスグループが発表会のアトラクションで人形芝居をすることになり、私が引っ張り出されたのです。シナリオ編集から人形づくり、演技指導すべてを1人で行いました。本番は大盛況でした。その後、2003年の国民文化祭では町から委託を受け、町内の多くの人達と一緒に準備と練習に2年をかけて、奥泉光氏原作の「坊ちゃん忍者幕末見聞録」を演じました。

もし、文化による町興しを考えるなら、子供達に文化的に深みのあるものに触れさせる機会を作ること大切だと思います。それが、文化を根付かせることにつながるからです。

人と人とが面と向かって交流し何かを創る場が大事である、という信条を持っていて、その材料が私にとって人形芝居です。最近、町内の人達と「百戦百敗」という劇団を結成しました。

山形県のイメージはズバリ「白」。雪の白、お米の白でもありますが、何もない「白紙」のイメージです。何もないから何でもできる最良の創造空間ではないでしょうか。



「坊ちゃん忍者幕末見聞録」東山大膳を操る